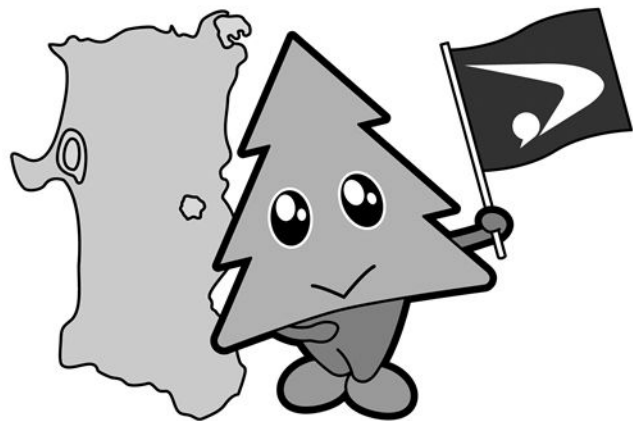


# I 県勢編

## 総説

- 1 沿革
- 2 変遷
- 3 位置
- 4 地勢
- 5 主要山岳、河川、湖
- 6 地質



## 1 沿 革

日本列島にヒトが住み始めたのは、旧石器時代と言われています。秋田県では、2万数千年前の石器が見つかっており、この時代の遺跡として大仙市米ヶ森遺跡が知られています。約1万2千年前に始まった縄文時代、人々は竪穴住居に住み、主に木の実や動物、魚・貝類を捕る生活でした。前期ごろからは数十人を超す大きな集落も作られ、このころから、秋田県の南部と北部では土器等の文化に大きな違いが見られるようになり、それはその後長く尾を引きました。また、後期には配石遺構が多く造られ、特別史跡大湯環状列石は縄文時代の日本を代表する遺跡の一つであります。

今から2千数百年前に北九州で始まった弥生文化は秋田県にも達し、秋田市地蔵田遺跡等でそのころの土器が多く出土しています。しかし、縄文時代とあまり変わらない社会が続き、前方後円墳に代表される古墳文化はついに秋田県までは達しませんでした。

中央政府には組み込まれず独自の文化を維持した東北北部のうち、秋田地方が史書に現れる最初は、齊明天皇4（658）年の阿倍臣比羅夫の水軍北上によってでした。この後、和銅5（712）年の出羽国誕生、天平5（733）年の出羽柵（8世紀中ごろには「秋田城」と称された）高清水岡への移転、天平宝字3（759）年の雄勝城の築城と続き、9世紀初頭には弘田柵も造られました。9～10世紀の元慶（878～879）・天慶（939）の両乱は在地勢力の抵抗で、土豪の中から新たな勢力が台頭してきました。前九年の役で清原氏は出羽・陸奥六郡を治め、後三年の役によって藤原氏がそれを受け継ぎました。

鎌倉時代には、鹿角郡に成田、比内郡に浅利、秋田郡に橘、雄勝郡に小野寺、平鹿郡に平賀、由利郡に由利の各氏が地頭職で入った。戦国期には、小野寺・戸沢・浅利・檜山安東・湊安東の各氏が戦国大名として戦いに明け暮れ、安東氏等は大きな鉄生産と交易等によって財力を築いたことが、発掘調査などで分かっています。

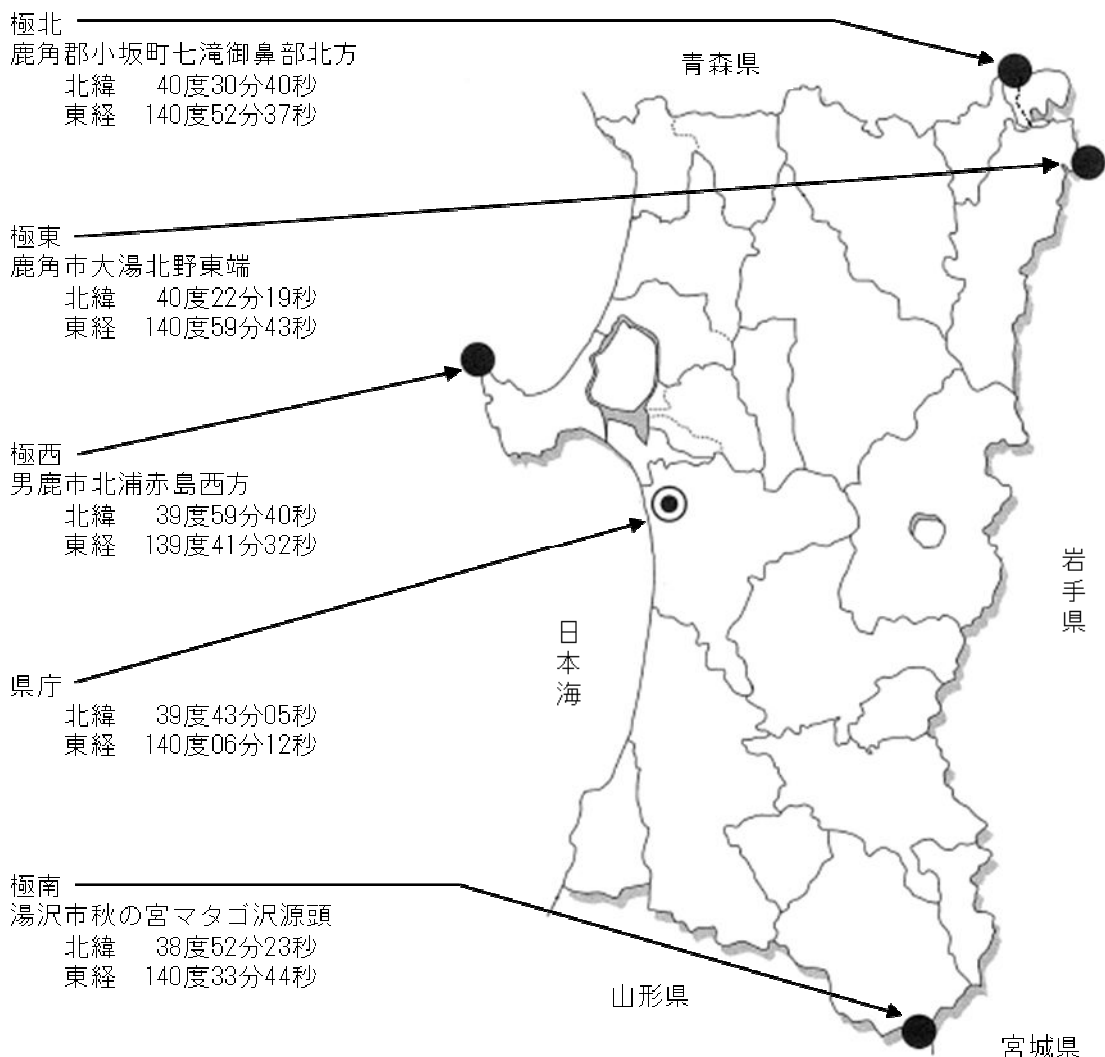
慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いにより、同7（1602）年、佐竹氏が常陸54万石から秋田・仙北20万石に移封されました。佐竹氏は久保田城（秋田市）を本拠として、藩政期約260年間を通じて領内の新田開拓、院内・阿仁等の鉱山開発や秋田蘭画を代表とする文教振興などに大いに実績をあげ、やがて明治以降の産業経済、文化発展の基盤を確立しました。明治元年の戊辰戦争では、いわゆる官軍として奥羽諸藩の中で孤立し、広い地域にわたって戦禍をこうむりましたが、人々の献身的な努力によって復興しました。

明治4年廃藩置県が行われ、同年11月2日、府県統合により現在の行政区域が定められ、今に続く秋田県が成立しました。以後近代日本の地方自治体として大正時代を経て戦後の社会、経済の混乱期を乗り越え、昭和26年度の総合開発計画を始めとして、これまで策定した一連の総合計画は、それぞれの時代の課題を取り上げそれに対処してきました。そして、平成22年3月には、秋田の元気創造に向け、県民一丸となって取組を進めていくための「ふるさと秋田元気創造プラン」を策定し、「4つの元気（元気A：秋田に新たな“戦略産業を創出”する、元気B：秋田の“食・農・観”を丸ごと売り出す、元気C：県民が一丸となって“脱少子化秋田”を果たす、元気D：高齢社会に対応した“安心医療秋田”、“協働社会秋田”をつくる）」を目標として各種施策・事業を推進しています。



### 3 位 置

本県は、首都東京のほぼ真北約450kmの日本海沿岸にあって面積11,636.28km<sup>2</sup>、13市9町3村に区画され、周囲は奥羽山脈を隔てて、東は岩手県に、南は山形、宮城の両県と隣接し、北は本州最北端青森県と境して景勝地国立公園十和田湖を分け、西は日本海に面している。



注1 測量法等の改正により平成14年4月1日から緯度・経度の基準が、日本測地系から世界測地系に変更になった。

注2 十和田湖の青森県との県境は、平成20年11月に確定し、12月25日より発効した。

### 4 地 勢

本県は、経緯度計算によれば南北181km、東西111km、東経140度、北緯38、39、40度にまたがり、面積は11,636.25km<sup>2</sup>（全国6位）である。

地勢は、東の県境の奥羽山脈に沿って那須火山帯が縦走して、八幡平、駒ヶ岳、栗駒山の諸火山と田沢、十和田の両カルデラ湖を形成し、西に平行する出羽丘陵に沿って鳥海火山帯が走り、その南端部にそびえる鳥海山は東北第二の高さを誇っている。

県北には、鷹巣、大館、花輪の諸盆地、県南には横手盆地などがあり、一方、雄物川、米代川、子吉川などの河川に沿って肥沃な耕地を展開して、その下流に秋田、能代、本荘の各平野があり、多くの都市が発展している。

## 5 主要山岳、河川、湖

### (1) 山 岳

(単位：m)

山 岳 名	標 高	主 な 所 在 地
鳥 海 山	2,236	秋田県にかほ市、山形県
駒ヶ岳(男女岳)	1,637	秋田県仙北市、岩手県
栗 駒 山	1,627	秋田県雄勝郡、宮城県、岩手県
八 幡 平	1,613	秋田県鹿角市、岩手県
畚 岳	1,578	秋田県仙北市、岩手県
諸 檜 岳	1,516	秋田県仙北市、岩手県
乳 頭 山	1,478	秋田県仙北市、岩手県
森 吉 山	1,454	秋田県北秋田市
嶮 岨 森	1,448	秋田県仙北市、岩手県
和 賀 岳	1,440	秋田県仙北市、岩手県
虎 毛 山	1,433	秋田県湯沢市
秣 岳	1,424	秋田県雄勝郡
三 界 山	1,381	秋田県雄勝郡、岩手県
朝 日 岳	1,376	秋田県仙北市
焼 山	1,366	秋田県鹿角市、仙北市
神 室 山	1,365	秋田県湯沢市、山形県
高 松 岳	1,348	秋田県湯沢市
薬 師 岳	1,218	秋田県大仙市、岩手県
田 代 岳	1,178	秋田県大館市
白 岩 岳	1,177	秋田県仙北市
太 平 山	1,170	秋田県秋田市、北秋田郡

注 標高1,000m以上の主要山岳

資料：国土交通省国土地理院

### (2) 河 川

(単位：m)

河 川 名	区 間		流路延長	
	上 流 端	下流端		
幹 川	雄物川	湯沢市 南沢の合流点	日本海	129,800
雄物川	玉 川	仙北市 八類沢の合流点	雄物川	103,117
右支川			合流点	
雄物川	皆瀬川	湯沢市皆瀬字小安奥山国有林35	雄物川	44,164
右支川		林班子小班地先	合流点	
			(秋田県側)	
幹 川	米代川	岩手県八幡平市 根石川の合流点	日本海	110,181
米代川	阿仁川	北秋田市 岩井の沢の合流点	米代川	62,400
左支川			合流点	
米代川	小阿仁川	北秋田郡上小阿仁村 萩形沢の合流点	阿仁川	48,545
左小支			合流点	
幹 川	子吉川	由利本荘市 上玉田川の合流点	日本海	60,800
子吉川	石沢川	左岸 雄勝郡羽後町上仙道字上桧山30番地先	子吉川へ	69,600
右支川		右岸 同町上仙道同字21番地先	の合流点	

資料：県河川砂防課

(3) 湖

湖名	面積 (km <sup>2</sup> )	最大深度 (m)	所在市町村
十和田湖	61.02 (うち秋田県 24.41)	326.8	鹿角郡小坂町
八郎潟調整池	27.70	12.0	男鹿市、潟上市、南秋田郡 五城目町、同郡八郎潟町、 同郡井川町及び同郡大潟村
田沢湖	25.78	423.4	仙北市

注 十和田湖：平成20年12月25日境界確定

資料：国土交通省国土地理院

## 6 地 質

本県の地質は、青森及び岩手の県境付近に分布する古生代の粘板岩類と太平山を中心とする中世代白亜紀の花崗岩類を基盤として、新第三紀層及び第四紀層などの地層が広く分布している。

新第三紀層は、大別すると下部の火山岩類を主とする岩相と上部の堆積岩類を主とする岩相に分けられる。火山岩類は脊梁山地を中心とする県内陸部に広く分布し、海底火山噴出物である変質安山岩、石英安山岩、玄武岩などからなり、緑色凝灰岩（グリーンタフ）によって特徴づけられる。これらの火山岩類に伴って銅を始めとする有用金属を豊富に含んだ鉱床が形成され、北鹿地域の黒鉱鉱床はその代表例である。堆積岩類は、出羽丘陵以西の日本海側沿いに厚く発達しており、泥岩、砂岩、礫岩などで構成されている。海岸沿いには褶曲運動による背斜構造が幾系列も発達しており、その中に石油や天然ガスを胚胎している。

第四紀層としては、平野部では盆地、扇状地、段丘、砂丘などを構成する砂礫が卓越し、山地では那須一鳥海火山帯の活動により形造られた多数の火山が随所に地熱地帯を形成しており、本県のエネルギー源として重要である。